

わたしのふるさと 佐木島

私の住んでいる佐木島には、三原市でただ一つの島の小学校があります。

春には、向田地区にある「塔の峰千本桜」がとてもきれいです。昨年の4月10日、なかよし遠足で行った時には、ちょうど満開でした。小高い丘の塔の峰の頂上からは、チューリップ畑や向田地区の家々、向田港などが見えます。

佐木島で一番高い大平山にも全校で登りました。頂上からは、北方向に小佐木島と三原の市街地が、南方向に向田湾が、東方向に因島と因島大橋が、西方向に幸崎地区が見えます。四方が見わたせて、気持ち良い登山が楽しめます。

夏には、「トライアスロン」が行われます。最初にスイムで1.5km、次に自転車で島内4周、最後にランで1周走ります。全国から500人ほどの選手が参加をしています。島の人は、子どももお年寄りもこの大会の成功のために、ボランティアとして参加しています。

秋には、各地域でお祭りがあります。須ノ上地区の「だんじり」は、みこしの中に子どもが乗って太鼓やかねをたたき、大人の人がかっいで地域全体をねり歩きます。子どもからお年寄りまで、みんな伝統あるこのお祭りを大事に守っています。

冬には、特産物のわけぎやかんきつ類がたくさん収穫されます。私の家も農家なので、わけぎやかんきつ類の栽培をしています。はつきりやデコポンなど、あまいものもすっぱいものもあります。わけぎは、みそ汁に入れるとおいしいです。

このように、佐木島には一年を通してとてもたくさん行事や見どころ、そして特産物があるので、ぜひたくさんの人に来てほしいです。私たちも自慢のふるさとをしっかりとアピールするとともに、佐木島を大切に守っていきます。



わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します
— 連載第21回 —

三原の緑を残す

今、世界の自然がおびやかされていることを知っていますか。年々暮らしが豊かになる一方で、地球の緑はくずされています。自動車の排気ガスによる酸性雨、森林のゆき過ぎた伐採による砂漠化などがその一例です。

しかし、これは遠い所の話ではありません。この三原市でも、緑を減らしている行動をみかけることがあります。

一つが神明市の時です。三原市の祭りの中でも有名な神明市ですが、屋台の裏側や屋台のない通りを見ると、ごみがたくさんありました。これは、三原市の緑や景観を破壊するだけでなく、そこに住んでいる人の心を傷つけることにもつながります。

二つめは、山にごみを捨てる人がいるということです。ぼくは、一回三原の筆影山に登ると同時に、ごみを拾うという活動に参加したことがあります。その時に、たばこの吸い殻、お菓子の容器、空き缶、空きびん、ビデオテープなど数えきれないほどごみが捨ててありました。ぼくはこの活動に参加して、ごみを拾うのはこんなに大変なんだと実感しました。また、きれいな三原市でいられるのは、こういってボランティアの方々を支えてくださっているおかげだ、ということも分かりました。

ぼくは、三原市に住んでいながら三原市を汚す人を許せません。これから社会で生きていく中で、「自然環境」について向き合い、その問題に正面から取り組んでいくことが必要だと思っています。

そこで、山登りやクリーン活動、川での生き物探しなどの自然にふれ合える行事があったらいいと思います。そして、その活動に参加した人が自然に興味をもってくれたらうれしいです。美しい三原市をつくること、ぼくの望む夢です。

